

お じま 小 島 遺 跡



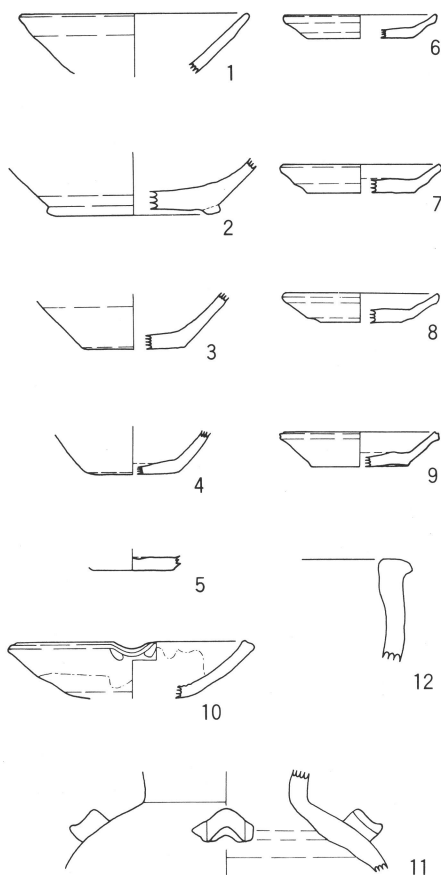
調 査 前 風 景

小島遺跡は沖積低地に所在する残存丘陵の南側斜面に所在している。今回の調査区は、この斜面低部付近にあたる。

調査区は現在畑地として利用されている。畑の耕作土を掘り下げると、赤褐色を呈する搬入土を見ることができ、この場所が土砂搬入作業により、従来水田だったものを畑地へと転換されている様子を見ることができた。なお、遺構は旧水田の耕作土下で検出できるが、遺物は搬入土中より見られるものが大半である。ただし、これらは12～13世紀を中心とする時期に比較的まとまっており、若干の注意を必要とする。なお、この土層は、調査区北方に所在する民家裏を掘削した時の廃土を搬入したもので、今回出土している遺物の多くは当初この場所に所在していたことが推定できる。従って、小島遺跡の主要部分はずでに消失していることが推定でき、今回検出している遺構はその外縁部に位置したものであろう。

小島遺跡の西南方向数十mには、矢作古川河床で、砂層中より二次堆積で多量の遺物が採集されており、矢作古川河床遺跡として知られるが、小島遺跡は、この実体であった可能性が高い。

(池本正明)



出 土 遺 物 (1/4)